(C)十勝毎日新聞社

2017 冬季アジア札幌大会

美帆連日の圧勝劇

スピードスケート 日本勢4種目で「金」

第3日は21日、明治北海道十勝オーバルでスピードスケートを行い、日本勢は男女計4種目の全てで金メダルを獲得した。女子1500㍍は高木美帆（日体大―帯南商高出）が1分56秒07で制し、前日に優勝した3000㍍に続く大会新、アジア新、国内最高記録。1500㍍と3000㍍の2種目制覇は、2003年青森大会の田畑真紀（当時富士急）以来。2位に押切美沙紀（富士急―駒大苫小牧高、中札内中出）、3位に高木菜那（日本電産サンキョー―帯南商高出）、4位に釧路管内厚岸町出身の佐藤綾乃（高崎健大）が入った。同団体追い抜き（チームパシュート）は日本（押切、高木菜、佐藤）がリンク新などで頂点に立った。高木美帆は疲労を考慮しメンバーから外れた。同500㍍は小平奈緒（相澤病院）が優勝し、1000㍍との2冠。郷亜里砂（イヨテツ―山梨学院大、白樺学園高出）が3位、辻麻希（開西病院）は6位。五輪2連覇中の李相花（イ・サンファ、韓国）は2位。男子1000㍍は長谷川翼（日本電産サンキョー―日大、白樺学園高出）が4位。日高管内浦河町出身の小田卓朗（開発計画研究所）が1分9秒33の国内最高記録で制し、中村駿佑（EH）が3位に入った。

（北雅貴、内形勝也、金野和彦、新井拓海）

女子1500㍍を制し、日の丸の旗を手にウイニングランをする高木美帆

得意種目「譲らぬ」

「1500㍍はほかの競技よりも金メダルが求められていた。自分もこの種目だけは譲れないと思っていた」

高木美帆は得意種目で、自身の持つ国内最高記録を0秒18塗り替えての優勝に胸を張った。

2位に2秒06差をつける圧勝で、連日の快挙に花を添えた。700㍍以降の2周を29秒91、31秒15でまとめ、特に強さを見せた。カナダ・バンクーバー五輪覇者で五輪3大会連続メダル獲得のイレイン・ブスト（オランダ）がつくった3年前のリンク記録を0秒86上回った。

今月に行われた世界距離別選手権（韓国）で3位に入ったことわりのある種目だけに、自身に求めるものも厳しくなる。「ラップがあまり落ちなかったのは良かったが、世界のトップと戦うには中盤までのスピードがまだ足りない」

同選手権1位のヘザー・ベルフスマ（米国）との1秒04差、2位のブストの0秒93差を埋めるために、前半の滑りを課題に挙げた。

幼稚園の頃から屋外だった旧リンクに通っていた思い出の帯広の森。この日も3248人の観衆が詰めかけ、前日に続いて盛況だった。優勝を決めた後、日の丸の旗を手に珍しくウイニングラン。「小さな子どもたちもたくさんいた。自分みたいになりたいと思ってもらえたら光栄。少しでもスケートに興味を持ってもらえたらと思って」と話す。

来季の平昌五輪（韓国）の頂点をターゲットにする22歳は、真摯（しんし）に競技と向き合っている。

高木美 また国内最高

女子500 小平圧巻V 郷3位

女子500㍍終了後、健闘をたたえ合う優勝の小平奈緒と2位の李相花（左から）

冷静に李を逆転 小平

○…小平奈緒が女子500㍍で同走の李相花に勝利、世界距離別選手権女王の力を見せつけた。先行する李相花を追う展開にも焦ることもなく「コーナーで加速すれば挽回できる」と冷静だった。インスタートのため、先行するバックストレートでは格好の目標にされた。それでも最終カーブをきれいに回り、0秒31差でゴール。終了後は互いに健闘をたたえ合い、「来年はファイトしよう」と声を掛けられたという。五輪プレシーズンの国際大会は同種目8戦8勝。25日開幕の世界スプリント選手権は好記録が期待されるカルガリー（カナダ）。日本人初の36秒台を目指す。

初の37秒台突入 郷

○…郷亜里砂が500㍍で念願の37秒台をマークし笑顔でガッツポーズした。自己ベストは今季、W杯アスタナ大会（カザフスタン）と世界距離別選手権でマークした38秒00。「壁を感じていたので本当にうれしい」

100㍍は、アスタナと同じ最速タイの10秒48で通過した。バックストレートで先行する選手を追える有利な展開をこれまでは生かし切れていなかったが、この日は違った。落ち着いて滑り最終カーブで加速、直線でもスピードに乗った。

6位に悔し涙 辻

○…女子500㍍で6位の辻麻希が悔し涙にくれた。1～4位が37秒台でアジア記録更新の争いの中、38秒19でフィニッシュ。自己ベストの37秒62にも届かなかった。

前日の1000㍍は10位ながらも好感触を得ていただけに、ショックは大きかった。「地元で滑るのは今シーズン最初で最後。地元の皆さんにたくさん応援してもらっているのに悔しい」。今季は世界スプリント選手権大会とワールドカップ最終戦のみとなった。辻は「この悔しさをバネに、残り2戦で何とか復活の足掛かりを」と誓った。

29歳となった今季、成長を遂げた。短距離2種目で国内自己記録も更新、W杯では5度1桁順位に。世界距離別選手権でも10位となり、上位と戦う位置にまで上ってきた。「37秒台を出さないとオリンピックや世界で戦えないと意識していた。1つの目標は達成できた」と充実感を漂わせた。

復活の表彰台 押切

【女子団体追い抜き】3分0秒08の好タイムで制した日本の高木菜那、佐藤綾乃、押切美沙紀（左から）

股関節痛を抱える押切美沙紀が、苦しみながらも役割を全うした。

この日は1500㍍と団体追い抜きの2種目に出場した。日本記録を保持する1500㍍では、700㍍が出場18選手中、唯一の54秒台でトップで通過。いつも通り積極果敢な滑りで観衆を沸かせた。団体追い抜きでも、3周目に先頭で引っ張り、3分0秒08の好タイムに貢献した。「今の持てる力を出し切ったレースだった」とすがすがしい表情で振り返った。

故障と付き合いながらのシーズンだった。昨夏の氷上での団体追い抜き練習中の転倒が原因で、11月のワールドカップ（W杯）第1戦のハルビン大会（中国）からずっとレース前に痛み止めを服用。年末の全日本選手権後の約1カ月は、シーズン中には異例となる氷上練習を中断し、リハビリに力を入れた。

不安な気持ちのまま今大会を迎えたが、観衆の大声援に力をもらった。「ここまで状態が戻るとは思わなかった」と感謝する。

ボブスレー選手で妹の麻李亜（ぷうう）―帯南商高出）が女子世界選手権（17、18日・ドイツ）女子2人乗りで総合7位と健闘。妹の奮闘も励みにしての活躍だった。

地元で最高の恩返し 高木菜

○…女子団体追い抜きで高木菜那は1周半、先頭でチームを引っ張った。

エースの妹美帆を欠きながらも押切美沙紀、佐藤綾乃とリンク新、大会新、アジア新記録を出した。「今まで妹がやっていたポジションを自分がやるプレッシャーはあったけど、ちゃんと滑ることができた。地元の大勢の応援に最高の形で恩返しができた」と、喜んだ。

1500㍍では3位に入り調子の良さをアピール。大会規定（1カ国・地域のメダル獲得は2個まで）により銅メダルは手にできなかったが、団体追い抜きの金でうっぷんを晴らした。足のけがで万全な状態ではないが「レースごとに回復してきている」と、地元十勝で完全復活への足掛かりをつかんだ。

【女子500㍍】初の37秒台をマークし、レース後にガッツポーズする郷亜里砂

小田優勝 中村3位 男子1000

大きな自信に 小田

○…男子1000㍍で小田拓朗が大会新、アジア新記録で優勝。小田は「年明けのレースの中で一番のレース内容だった」と胸を張った。12日の世界距離別選手権（韓国）ではメダルを目指したが14位に沈んだ。気を取り直して臨んだ今大会で今季の国内ベストをマーク。「国際大会の金メダルは大きな自信になった」と満面に笑みを浮かべた。

自己ベストに匹敵 4位長谷川

○…長谷川翼が男子1000㍍で、2014年に高速リンクのカナダのカルガリーでの自己ベスト1分10秒13に匹敵する1分10秒21をマークした。

補欠の同種目で出場が急きょ決まったが、「代表を自覚し、ふがいないレースをしないように」と気持ちを入れて臨み、シーズンベストを出した。長谷川の主戦場500㍍の五輪メダリストは1000㍍も強い選手が多い。「きょうはコーナーでミスがあった。しっかり滑ったら（1分）9秒台が出ると自信になった」

満足していない

男子1000㍍3位の中村駿佑（EH、胆振管内安平町出身）の話　メダルを取れたのはうれしいが、日本人で1番でないので満足していない。

（21日・7位以下関係分）

【男子】▽1000㍍

世界記録	シャニー・デービス（米国）	1分6秒42
日本記録	長島圭一郎（日本電産サンキョー）	1分8秒09
国内最高	藤野　裕人（茨城県競技力本部）	1分9秒49
大会記録	李　奎赫（韓国）	1分9秒86
リンク記録	パベル・クリズニコフ（ロシア）	1分9秒23
①小田　卓朗（開発計画研究所）		1分9秒33
		＝国内最高
②クジン・デニス（カザフスタン）		1・9・64
③中村　駿佑（EH）		1・9・76
		＝以上大会新、アジア新
④長谷川　翼（日本電産サンキョー―日大、白樺学園高出）		1・10・21
⑤張　元勲（韓国）		1・10・31
⑥車　ミン奎（韓国）		1・10・51
⑨藤野　裕人（茨城県競技力向上対策本部）		1・10・98

【女子】▽500㍍

世界記録	李　相花（韓国）	36秒36
日本記録	小平　奈緒（相澤病院）	37秒13
国内最高	小平　奈緒（相澤病院）	37秒75
大会記録	于　静（中国）	37秒85
リンク記録	李　相花（韓国）	37秒92
①小平　奈緒（相澤病院）		37秒39
		＝国内最高
②李　相花（韓国）		37・70
③郷　亜里砂（イヨテツ―山梨学院大、白樺学園高出）		37・735
④于　静（中国）		37・738
		＝以上リンク新、大会新、アジア新
⑤張　虹（中国）		38・13
⑥辻　麻希（開西病院）		38・19

▽1500㍍

世界記録	ヘザー・ベルフスマ（米国）	1分50秒85
日本記録	押切美沙紀（富士急）	1分54秒10
国内最高	高木　美帆（日体大）	1分56秒25
大会記録	王　霊（中国）	1分58秒37
リンク記録	イレイン・ブスト（オランダ）	1分56秒93
①高木　美帆（日体大―帯南商高出）		1分56秒07
		＝国内最高、リンク新
②押切美沙紀（富士急―駒大苫小牧高、中札内中出）		1・58・13
		＝以上大会新、アジア新
③高木　菜那（日本電産サンキョー―帯南商高出）		1・59・45
④佐藤　綾乃（高崎健大）		1・59・77
⑤張　虹（中国）		2・0・14
⑥劉　晶（中国）		2・1・26

▽団体追い抜き（チームパシュート）

世界記録	カナダ	2分55秒79
日本記録	菊池・押切・高木美	2分56秒46
大会記録	韓国	3分4秒35
リンク記録	韓国	3分6秒54
①日本（押切美沙紀、高木菜那、佐藤綾乃）		3分0秒08
		＝リンク新、大会新、アジア新
②韓国		3・6・67
③中国		3・10・23
④カザフスタン		3・17・52